

うどの 鶺鴒ヨシ原 と 新名神高速道路

環境保全の取組み (ver.9)

～^{かがく}雅楽で使用される良質なヨシの保全と新名神高速道路の両立を目指して～



河川堤防からのヨシ原焼き後の風景（平成29年2月27日撮影）



ヨシ原焼き実施状況（平成29年2月26日撮影）



ヨシの生育状況（平成29年5月30日撮影）

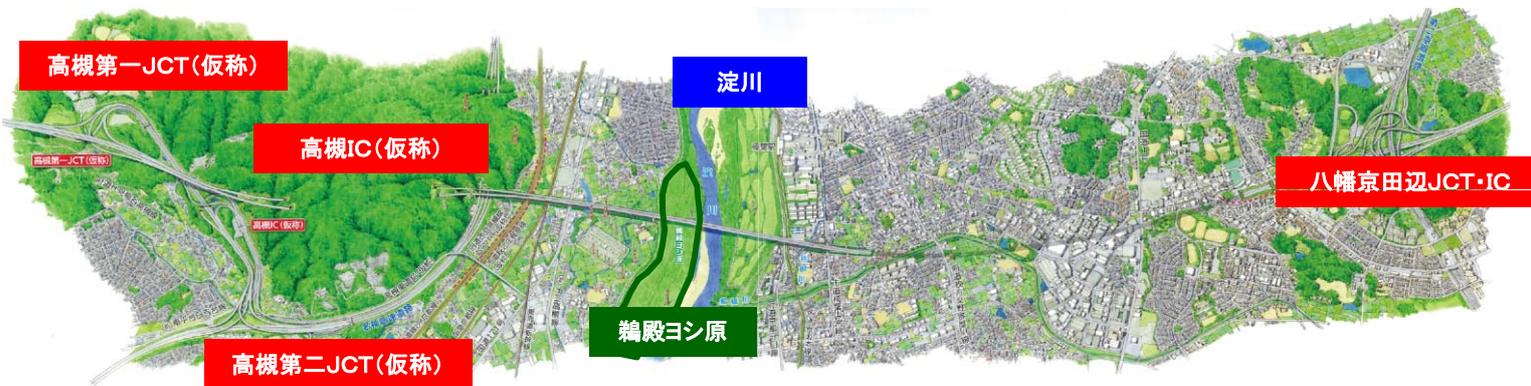
新名神高速道路の事業概要

新名神高速道路は、新東名高速道路と一体となって、これからの我が国の東西交通の基幹をなす路線であり、より安全かつ快適な高速走行を確保するとともに、名神・東名高速道路と適切に交通機能を分担し、高い信頼性の確保を図ることを目的として計画されました。



新名神高速道路(路線名:近畿自動車道 名古屋神戸線)は、名古屋市を起点として神戸市に至る、延長約174kmの高速道路です。NEXCO西日本では、その建設事業のうち大津JCT(仮称)～神戸JCT間の約80 kmを担当しています(八幡京田辺JCT・IC～城陽JCT・ICは供用中)。

八幡京田辺JCT・IC～高槻第一JCT(仮称)は、平成35年度の開通を目指して、新名神高速道路計画地及びその沿線にお住いの方を対象に説明会を開催し、測量や調査、設計を進めるとともに、用地を取得しつつ工事着手に向けた準備をしています。



新名神高速道路は、淀川を橋梁で横過する計画となっていますが、その河川敷には「鵜殿(うどの)ヨシ原」と呼ばれるヨシなどの自生するエリアがあり、自然環境だけでなく、歴史・文化的にも極めて重要な場所となっています。

この淀川と交差する八幡京田辺JCT・IC～高槻第一JCT(仮称)は、平成7年7月7日に都市計画が決定されており、大阪府によって環境影響評価での見解が下記のとおり示されています。

《都市計画決定に先立つ環境影響評価での見解》

事業の実施にあたっては、専門家の指導・助言を得て調査を行い、関係機関と十分協議・調整を図り、道路の構造等についてさらに詳細に検討を行い葦原に極力影響を及ぼさないよう橋梁の構造、橋脚の配置、工法等を検討し葦原の保全に努めることとしており、また、事業実施後においても、関係機関と協議・調整のうえ必要に応じ調査を行い、葦原の保全のための適切な措置を講じることとする。(H6. 12:大阪府)

鵜殿ヨシ原と新名神高速道路の位置について

新名神高速道路は鵜殿ヨシ原の北側の一部を橋梁で通過する計画であり、道路路面からの高さは概ね 30 m、幅員は概ね35mです。また、淀川の通過延長は約1,000mで、その内、鵜殿ヨシ原を通過する延長は約 300mとなっています。



鵜殿ヨシ原と箆(ひちりき)・蘆舌(ろぜつ)の概要

■ 雅楽とは ※小冊子「雅楽（公益財団法人菊葉文化協会発行、宮内庁式部職楽部 監修）」より抜粋

『雅楽は、千数百年の伝統を有し、世界で最も古い音楽文化財として貴重な歴史的価値をもつものであり、昭和30年、宮内庁式部職楽部の楽師が演奏する雅楽は国の重要無形文化財に指定され、楽師の全員が重要無形文化財保持者に認定されております。さらに、平成21年には、ユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。このように雅楽は、今後伝承されていくべき我が国の伝統文化として国際的にも認知されており、雅楽それ自体が発展し広まるとともに、他の音楽・舞踊に影響を与えていく可能性を有しております。』

■ 鵜殿ヨシ原の概要

鵜殿ヨシ原とは、大阪府高槻市の上牧(かんまき)及び道鵜(どうう)地区に広がる淀川河川敷に、長さ約 2.5km、幅約400m、面積約75haにわたるエリアで、ヨシなどが自生しています。

この地区に生えているヨシのうち良質なものは、雅楽で用いられる楽器「箆」のリード「蘆舌」として珍重され、現在でも宮内庁の箆奏者は鵜殿のヨシを蘆舌に使用しています。

■ 箆と蘆舌 ■



・・・蘆舌

・・・箆

■ 雅楽 ■



写真提供: 宮内庁式部職楽部

鶺鴒ヨシ原の環境保全に向けた検討会設置

NEXCO西日本は、新名神高速道路が淀川河川敷の「鶺鴒ヨシ原」を橋梁で横過するにあたり、『鶺鴒ヨシ原の環境保全に向けた基本的な考え方』を定め、雅楽で使用される良質なヨシ生育環境の保全と新名神高速道路事業の両立を図るために、専門家等から必要な調査、対策について指導、助言を頂くことを目的に検討会を設置しました。

■ 鶺鴒ヨシ原の環境保全に向けた基本的な考え方

- 鶺鴒ヨシ原は、雅楽で使用される良質なヨシの生育地であり、自然環境、歴史、文化的にも極めて重要な場所と認識しています。
- ヨシ原に極力影響を及ぼさないよう万全な対策を講じます。
- 対策検討にあたっては、専門家や関係者のご意見を十分に伺います。
- ヨシ原焼きが従来通り継続的に実施できるよう関係機関と調整し、対策を検討します。
- 雅楽で使用される良質なヨシ生育環境の保全と事業の両立に向け全力で取り組みます。

■ 検討会の概要

1) 目的

雅楽で使用される良質なヨシ生育環境の保全と新名神高速道路事業の両立を図るために、専門家から必要な調査、対策について指導、助言を得ること。

2) 検討会委員及びオブザーバー

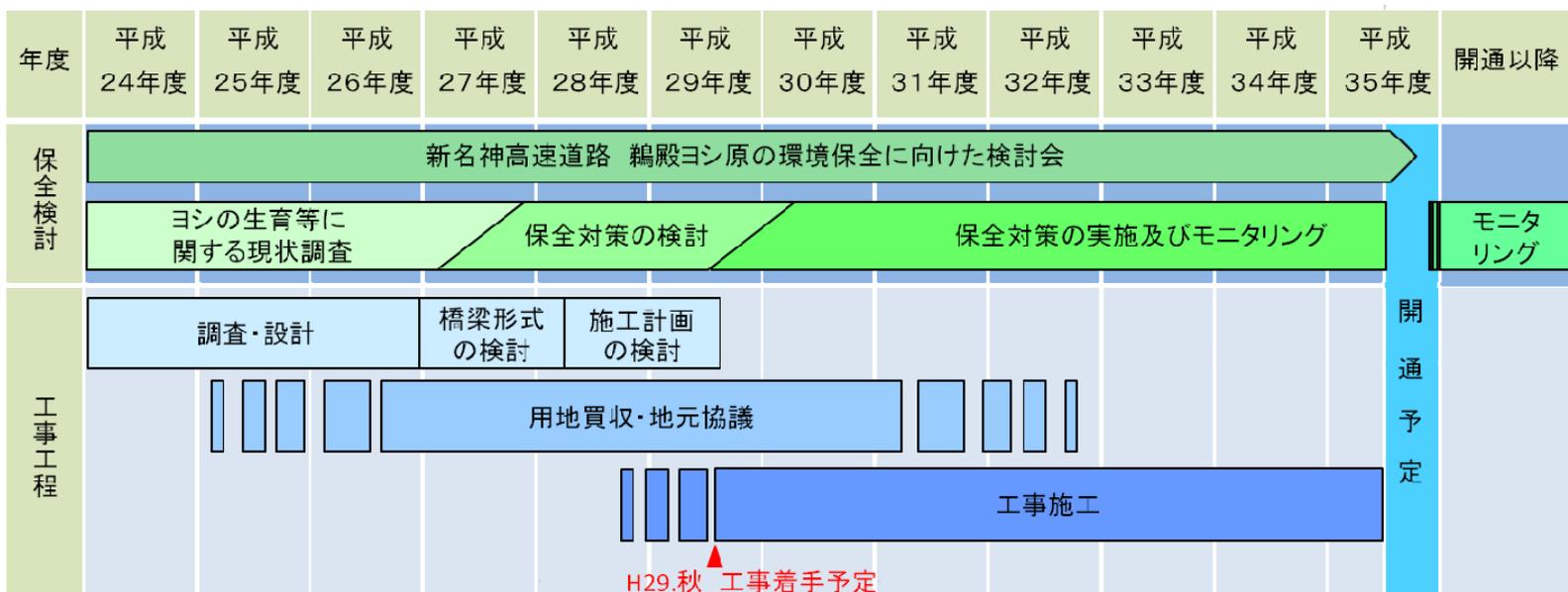
植物、自然環境、地下水、橋梁などに関する専門家（鶺鴒ヨシ原の環境保全に精通した専門家を含む）、地元関係者及び関係機関等により構成。

【検討会メンバー】(平成29年6月現在)

(敬称略)

氏名・組織		所属 (専門分野等)
委員	鎌田 敏郎	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 教授 (橋梁)
	小山 弘道	鶺鴒ヨシ原研究所 所長 (鶺鴒保全)
	中瀬 勲	兵庫県立 人と自然の博物館 館長 (自然科学)
	西垣 誠	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 特任教授 (地下水)
	布谷 知夫	三重県総合博物館 特別顧問 (植物学)
	服部 保	兵庫県立 南但馬自然学校 校長 (保全生態学)
オブザーバー	宮内庁式部職楽部	重要無形文化財「雅楽」保持団体
	国土交通省	河川管理者 (近畿地方整備局 淀川河川事務所)
	高槻市	地元行政 (産業環境部)
	鶺鴒のヨシ原保存会	鶺鴒のヨシ原焼き実行団体
	上牧実行組合	鶺鴒のヨシ原焼き実行団体
	東儀 秀樹	雅楽師、皇學館大学特別招聘教授

■ 鵜殿ヨシ原の保全検討に向けた全体スケジュールと検討概要



- ◆ 第1回検討会 開催：平成25年1月10日(木) 場所：高槻市市民会館
 - 議題 ○ 検討会の設立趣旨、規約(了承)
 - 検討スケジュール、検討内容(了承)
 - 植生調査での指導、助言をいただくための「植物ワーキンググループ」を設置(了承)
- ◆ 第2回検討会 開催：平成25年6月23日(日) 場所：高槻市市民会館
 - 議題 ○ 筆築用ヨシ採取エリア
 - ヨシの生育状況、鵜殿の土壤水分及び温度変化及び地下水位
 - 工事計画等
- ◆ 第3回検討会 開催：平成25年12月12日(木) 場所：高槻市市民会館
 - 議題 ○ ヨシの生育
 - ヨシの生育と地形・植生
 - ヨシ原への水分供給(土壤水分・地下水位)
- ◆ 第4回検討会 開催：平成26年5月25日(日) 場所：新大阪ブリックビル
 - 議題 ○ 筆築用ヨシ採取エリア
 - ヨシの生育
 - ヨシ原への水分供給(筆築用ヨシ採取エリアへの水分供給・導水路効果)
 - 筆築用ヨシを採取されているオブザーバーの皆さんからのコメント(品質、採取箇所等)
- ◆ 第5回検討会 開催：平成26年12月5日(金) 場所：高槻市市民会館
 - 議題 ○ 筆築用ヨシ採取エリアの現状
 - 筆築用ヨシの生育について
 - 土壤水分・地下水位測定と地下水流動
 - DNA分析
- ◆ 第6回検討会 開催：平成27年7月17日(金) 場所：高槻市市民会館
 - 議題 ○ ヨシの生育(鵜殿ヨシ原での調査結果・(株)高速道路総合技術研究所試験結果)
 - 筆築用ヨシの生育環境
 - これまでの調査結果のまとめ
 - 筆築用ヨシ採取エリアに対する検討

◆第7回検討会 開催：平成28年2月24日(水) 場所：新大阪ブリックビル

- 議題 ○これまでの調査結果のまとめ方針(案)
○鶺鴒ヨシ原の過去からの変遷
○鶺鴒ヨシ原の環境保全に配慮した橋梁計画案

◆第8回検討会 開催：平成28年10月10日(月) 場所：新大阪ブリックビル

- 議題 ○鶺鴒ヨシ原における植物調査に関する報告(案)
○筆管用ヨシ採取エリアにおけるモニタリング(案)

◆第9回検討会 開催：平成29年 5月17日(水) 場所：新大阪丸ビル別館

- 議題 ○筆管用ヨシ採取エリアにおけるモニタリング計画(案)
○上記計画における評価・検証を行う「モニタリングワーキンググループ」を設置(了承)

これまでに実施した調査の取り組み

【調査の目的】

筆管用ヨシの生育環境の
保全・拡大

■ 新名神高速道路の影響把握

● 直接的な影響
(道路工事に伴う、筆管用ヨシ
採取エリアの直接改変の影響)

● 間接的な影響
(道路工事や橋梁設置に伴う筆
管用ヨシ採取エリアへの水分
供給への影響や日照への影響)

■ 筆管用ヨシの生育環境等について把握

■ ヨシに関する生育調査

【これまでの主な調査内容】

鶺鴒ヨシ原の自然環境と
ヨシの生育環境に関する調査の実施

■ 筆管用ヨシ採取エリア※の把握 (H25.1～採取時期に実施:1回/年)

①：6ページ参照



※筆管用ヨシはこのエリア内の一部において採取されています。

■ 土壌水分供給状況の把握 (H25.4～継続中)

■ 地下水流動に関する解析 (H26.6～H28.2)

■ 日照に関する検討 (H26.9～H28.2)

②：6～8ページ参照



■ 生育環境に関する調査 (H25.4～H27.4)

■ DNA分析による特性の調査 (H25.4～H27.3)

③：9ページ参照



■ 生育試験によるヨシの特性 の調査(H25.4～H27.3)

④：10ページ参照



① 新名神高速道路の直接的な影響を調べました

筆筈用ヨシを採取されている地元の方々に現地での立会をいただいた上で、GPSによる位置情報を用いて筆筈用ヨシ採取エリア*を確認しました。

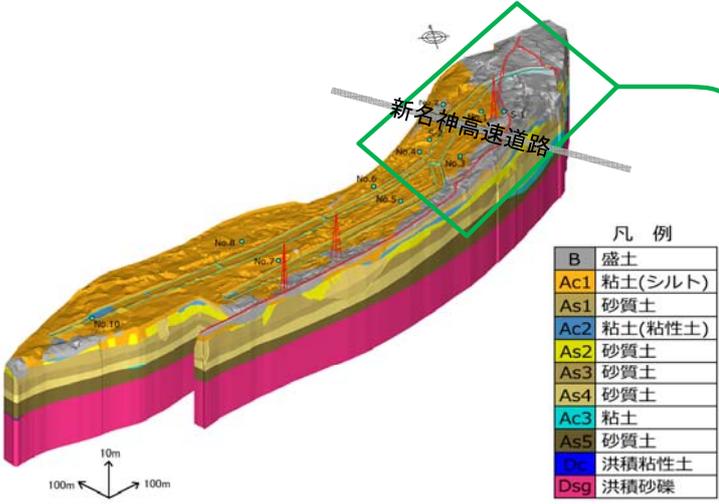
これまでにかわかったこと 筆筈用ヨシ採取エリアは、新名神高速道路計画ルートから南側に約60m以上離れており、事業による土壌等への直接的な影響がないことがわかりました。



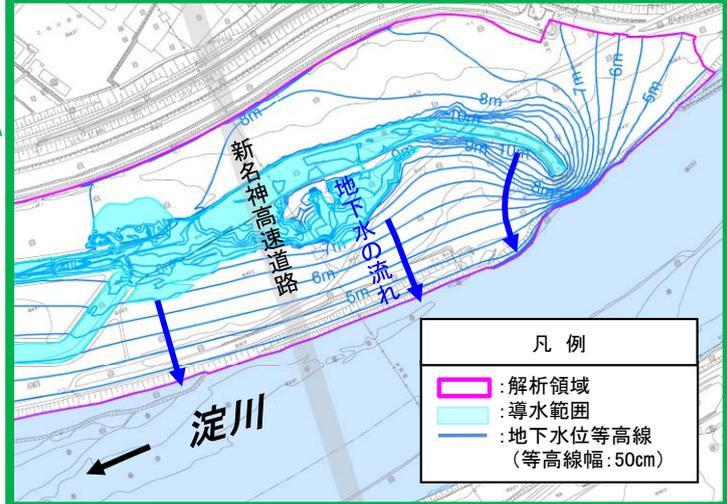
② 新名神高速道路の間接的な影響を調べました

(1) 鵜殿ヨシ原での地下水の流れの方向(流向)を把握するために、現地の状況及び地下水位について調査・解析を行いました。

これまでにかわかったこと 現地調査及び地下水位調査の結果、導水路から浸透した水は、堤防側から河川側へと河川横断方向に流れていることがわかりました。また、鵜殿ヨシ原の地形データや土壌データを用いて地下水の挙動を解析することで、より詳細な地下水の流動についてわかりました。



鵜殿ヨシ原の地形・土壌状況



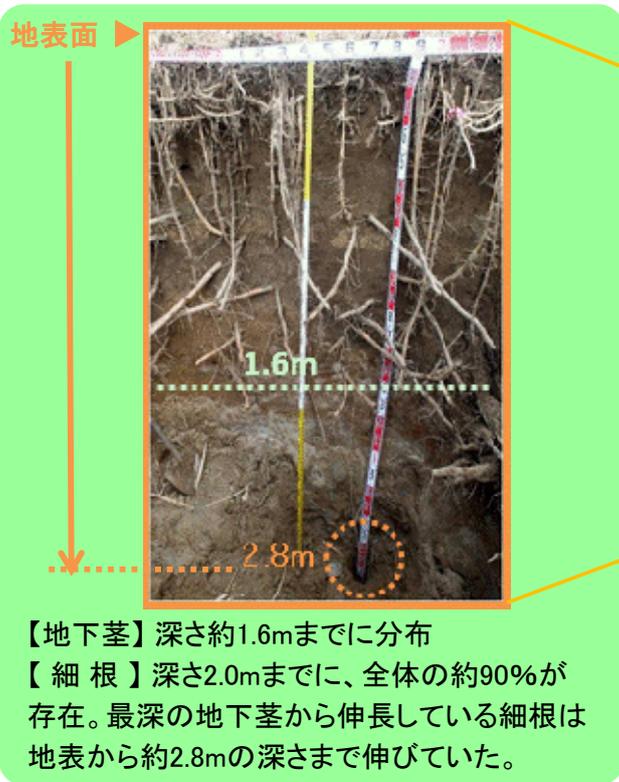
解析結果平面図(導水路通水時)

(2) 地下水位と筆築用ヨシの根系※との関係について調べるため、水位観測孔による地下水位の観測調査及び現地掘削による根系の伸長状況調査を行いました。

これまでに
わかったこと

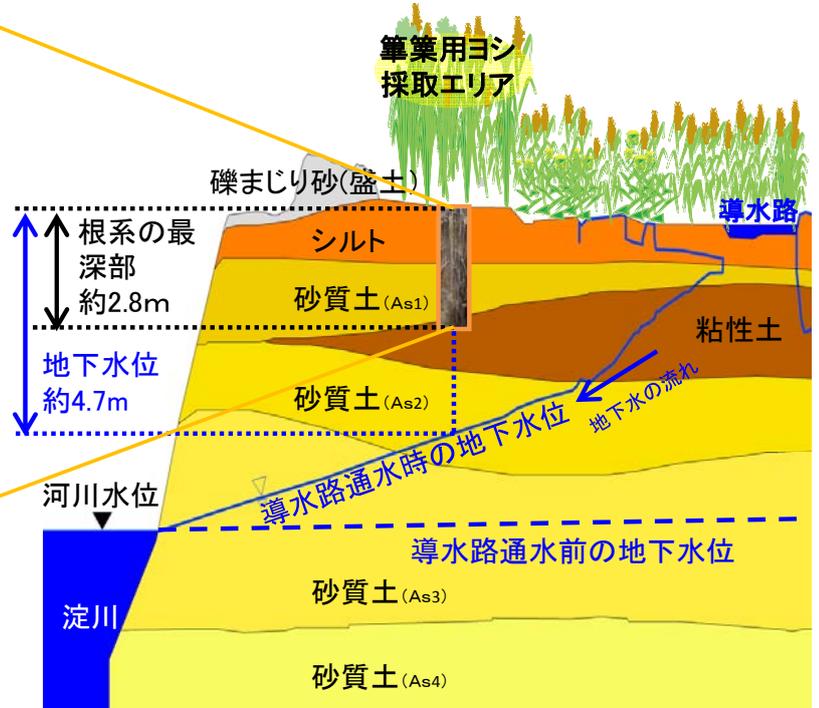
掘削調査等の結果、根系の分布深さに比べ、導水路通水時の地下水位の方が低い位置にあることから、筆築用ヨシ採取エリアにおける水分供給源は雨水が主体的であると推察されました。

※根系とは植物の地下部分の総称です。



【地下茎】 深さ約1.6mまでに分布
【細根】 深さ2.0mまでに、全体の約90%が存在。最深の地下茎から伸長している細根は地表から約2.8mの深さまで伸びていた。

筆築用ヨシ採取エリアのヨシの根系

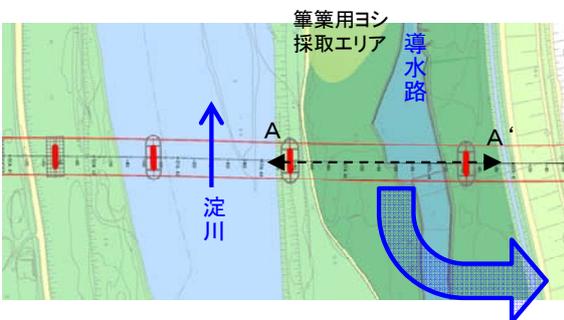


鵜殿地区の土壤横断面模式図【導水路通水時】

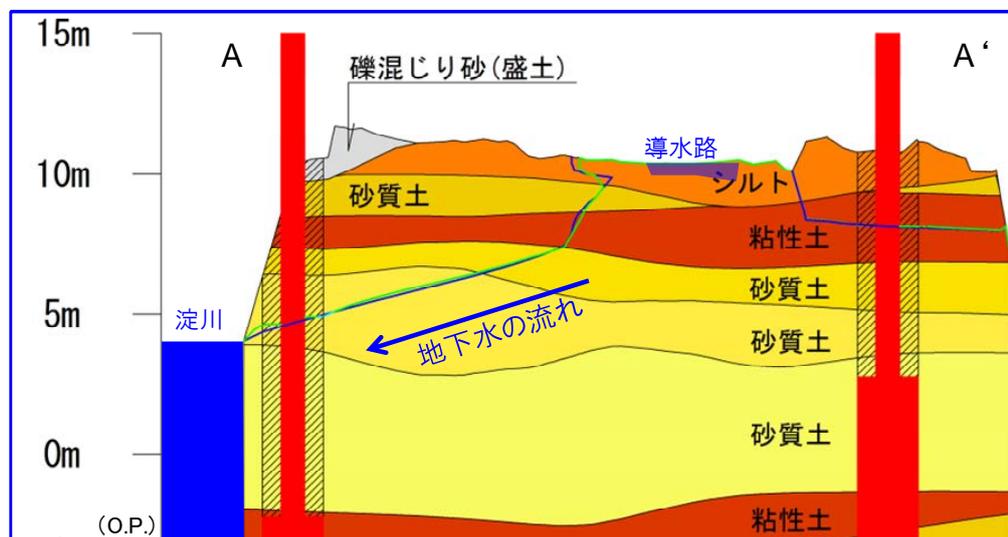
(3) 鵜殿ヨシ原における現状の地下水流動の解析モデルを利用し、ヨシ原に構造物を配置した場合の地下水位の変動についてシミュレーションを実施しました。

これまでに
わかったこと

構造物の配置により想定される地下水位変動をシミュレーションした結果、筆築用ヨシ採取エリアへ与える影響はないと考えられることが判りました。



- 凡例
- : 導水路通水時の地下水位
 - : 構造物配置後の地下水位
 - : 構造物(橋脚)
 - ▨ : 埋戻し土



鵜殿地区の土壤横断面模式図【構造物の配置想定時】

(4) 「鶺鴒原」と類似した環境の宇治川「向島のヨシ原」に架橋した事例(巨椋大橋※)を参考に新名神高速道路による日照変化に伴う、筆箒用ヨシの生育状況への影響について検討しました。

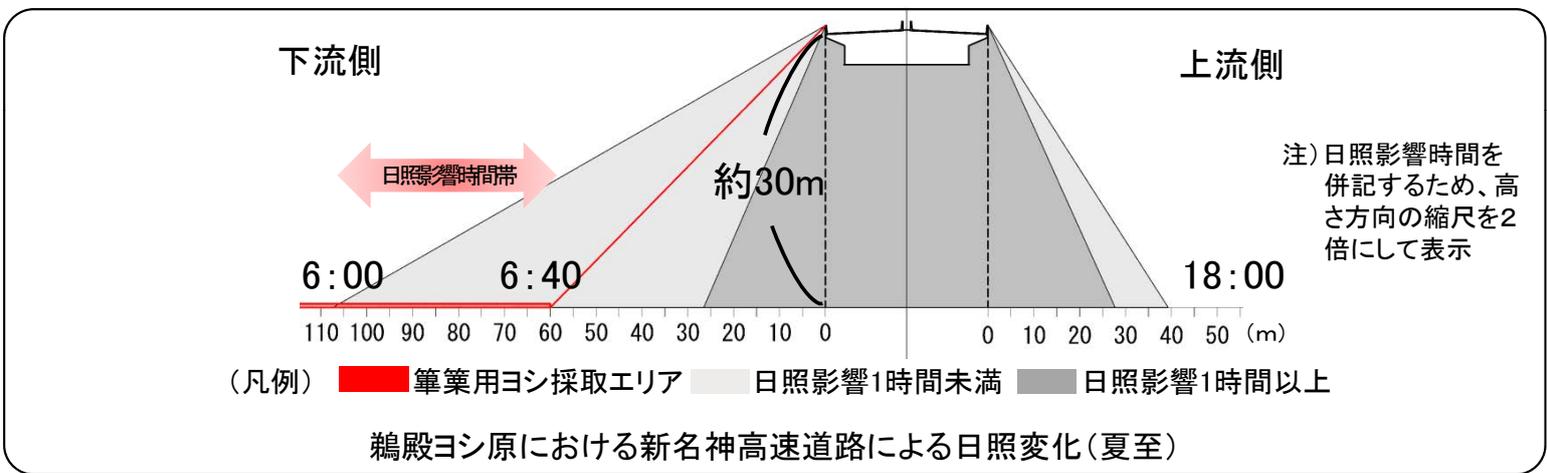
これまでに
わかったこと

筆箒用ヨシ採取エリアの一部に対する日照の影響は、夏至の早朝においても1時間未満に限られており、巨椋大橋の事例から筆箒用ヨシの生育に対する影響はないと推察されました。

※巨椋大橋 宇治川左岸の高水敷にある向島のヨシ原を通過する8車線(自動車専用部4車線、一般道4車線)の橋梁



➤巨椋大橋による日陰の影響が1時間程度では、ヨシの草丈や茎径に影響がないと推察されています。



豆知識：ヨシとオギの見分け方

ヨシとオギは、ともにイネ科の植物でよく似ていますが、ヨシ属とススキ属に分けられ、写真のように葉の特徴で容易に見分けることができます。

ヨシ (ヨシ属)

葉の拡大写真



- イネ科 ヨシ属の多年草。
- 水辺の半湿地に群生する。

- 葉が平たく、幅が広い。

オギ (ススキ属)

葉の拡大写真



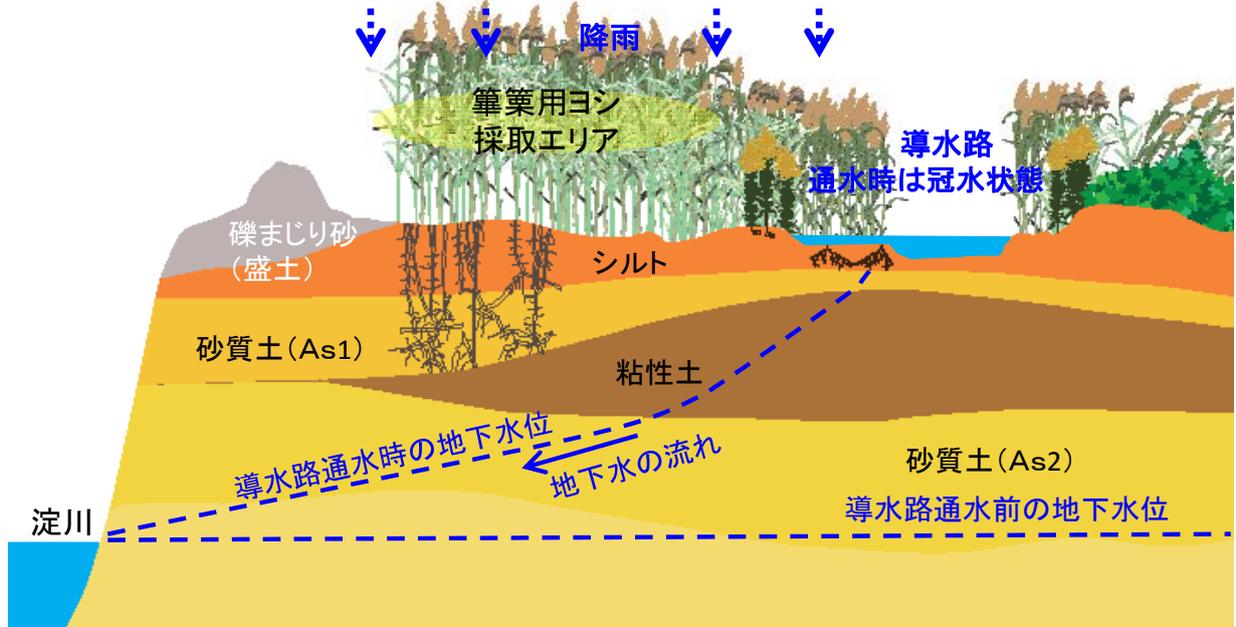
- イネ科 ススキ属の多年草。
- 水辺の乾燥地に群生する。

- 葉の中央に白い筋があり、凸凹がある。

③ 筆築用ヨシとその他のヨシとの生育環境の違いについて調べました

(1) 鶺殿における筆築用ヨシとその他のヨシとの生育環境に関して、微地形、土質、土壌硬度、土壌水分供給状況の調査及び導水路と地下水流動に関する解析などを行いました。

これまでにわかったこと 筆築用ヨシの採取エリアの土壌は、軟らかなシルト層と砂質土層で構成されており、また、導水路への通水により冠水しない微高地地形であることが判りました。



(2) 筆築用ヨシは、同じ形質を持った一つのクローン※であるか否かを解明するため、遺伝子レベルの調査を行いました。

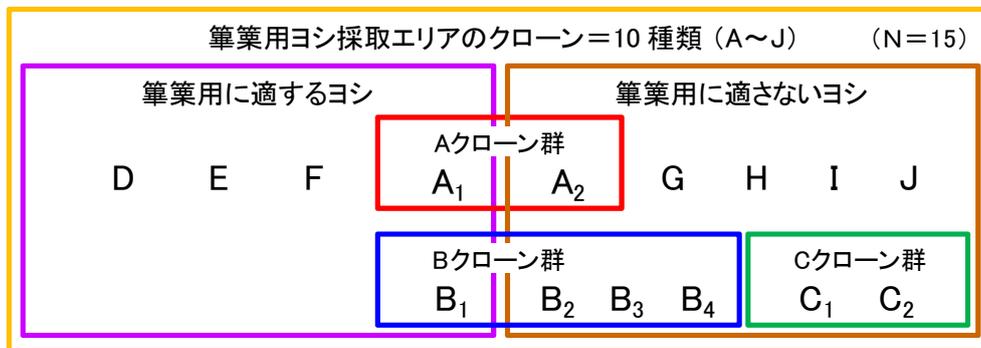
これまでにわかったこと 筆築用ヨシは、特定のクローン群から採取されているヨシではありませんでした。

※ この場合の「クローン」とは、「遺伝的に同一の個体」を指します。

① 鶺殿ヨシ原における出現クローン数

検体採取地	分析検体数	出現したクローン種数
筆築用ヨシ採取エリア	15	10

② 筆築用ヨシ採取エリアのヨシのクローン分類



Aクローン群・Bクローン群・Cクローン群は、同一の遺伝子を保有

筆築用に適すると確認されたヨシで、5種類のクローンが確認された。(A₁、B₁、D、E、F)
同一のクローン群(Aクローン群、Bクローン群)内でも、「筆築用に適するもの」と「筆築用に適さないもの」が確認された。

④ ヨシの基本的な育ち方について調べました

鶺殿地区から採取したヨシの穂や地下茎を用いてヨシの生育に関する基礎的な知見を得ることを目的に(株)高速道路総合技術研究所 緑化技術センター(滋賀県湖南市)において、試験を行いました。

これまでに
わかったこと

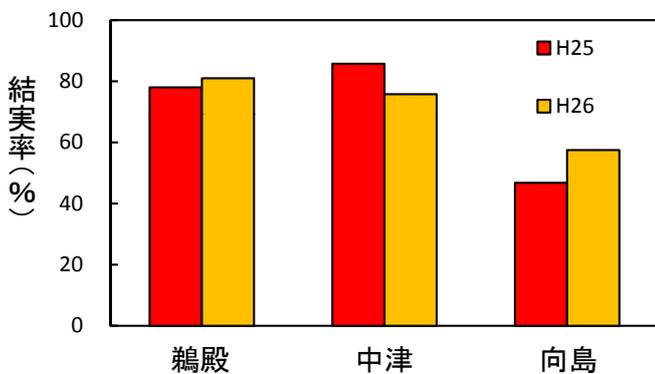
鶺殿のヨシは、種子及び地下茎からの生育が可能であり、実生苗※生育試験から、土壌中の水位と出芽条数、地下茎の生育には関係があることがわかりました。

(1) 発芽試験

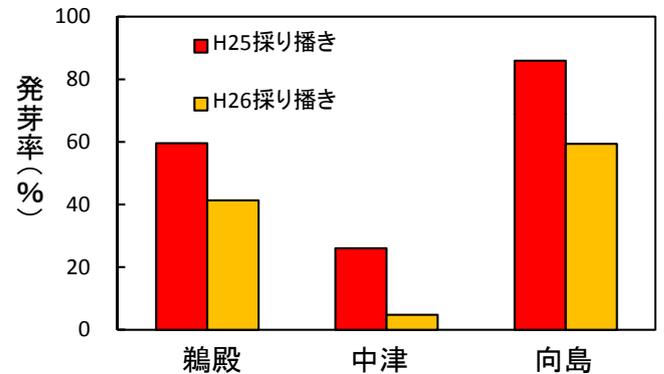
※ 実生苗とは、種子を発芽させて、育成した苗のことです。

結実率及び発芽率は、平成25年10月と平成26年10月に「鶺殿※¹」・「中津※²」・「向島※³」に生育するヨシの穂から採取した種子を使用して確認しました。

- 鶺殿、中津、向島の全地区において結実していることが確認されました。(グラフ①)
- 全地区とも、種子の採取年による結実率に顕著な変動は見られませんでした。(グラフ①)
- 種子の採取年によって発芽率は変動することがわかりました。(グラフ②)



グラフ① 採取年でみた結実率の比較



グラフ② 採取年でみた発芽率の比較

※1 筆管用ヨシが採取されている地区

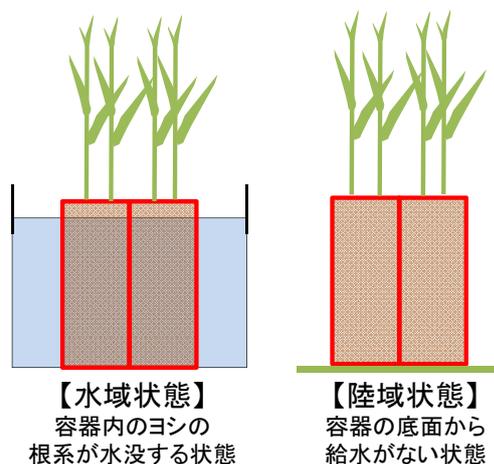
※2 鶺殿より下流側約20kmに位置する淀川のヨシ生育地

※3 鶺殿より上流側約15kmに位置する宇治川のヨシ生育地(P8参照)

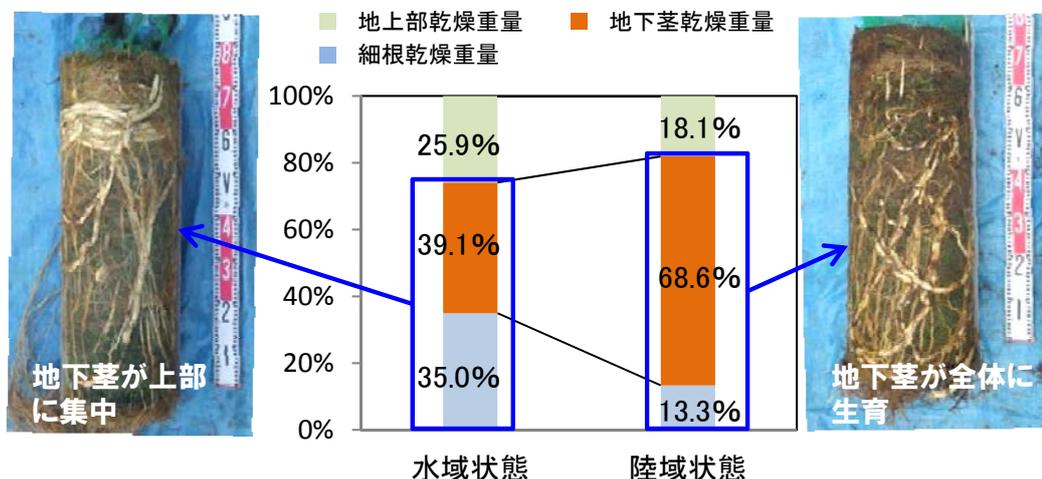
(2) 実生苗生育試験

実生苗生育試験は、鶺殿に生育するヨシの穂から採取(平成25年10月)した種子を発芽させた苗を用いて行いました。

- 地下水位が高い場合に出芽条数が増える傾向がありました。一方、地下水位と草丈及び地下水位と茎径の関係には明確な傾向はみられませんでした。
- 地下水位が低い環境で、地下茎が発達する傾向が確認されました。(グラフ③)



生育試験における地下水位の設定



グラフ③ 苗の各部位の乾燥重量の割合と根系の生育状況

鵜殿ヨシ原の環境保全と道路事業の両立に向けた橋梁計画の検討

NEXCO西日本では、ヨシの生育や鵜殿ヨシ原の各種環境に関する調査・検討結果に基づき、「雅楽で使用される良質なヨシの生育環境の保全」と「新名神高速道路事業」の両立を目指して、橋梁計画を検討しました。

淀川渡河部の道路計画

淀川渡河部の橋梁計画の検討(治水に関する条件)

護岸施設の保護

基準径間長

河積阻害率

橋脚の形状

基礎の根入れ

鵜殿ヨシ原の環境保全に関する検討会

目的: 鵜殿ヨシ原の雅楽で使用される良質なヨシ生育環境の保全

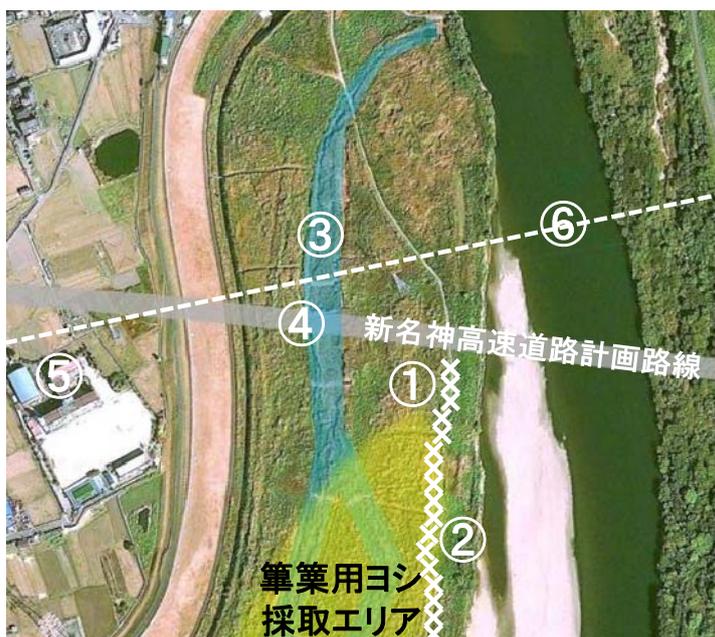
【設計段階での配慮事項】※

- 筆箒用ヨシ採取エリアを改変しない構造とする。(①)
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、ヨシ原の改変をできるかぎり低減する構造とする。(④)
- 鵜殿のヨシ原の自然環境にも配慮して、導水路機能を確保する構造とする。(③)

【施工段階での配慮事項】※

- 筆箒用採取エリアに施工ヤード及び資材ヤードは設けない。(①)
- 工事関係車両の進入等は新名神計画路線の上流側から実施する。(②)
- 鵜殿ヨシ原のヨシ・オギ群落の改変範囲を可能な限り低減する。(④)
- 工事期間中の導水路の通水機能は確保する。(③)
- 筆箒用ヨシ採取エリアについてモニタリングを実施する(開通後を含む)。

※ 第6回検討会資料より引用。



淀川の周辺状況に関する配慮事項

- 新名神計画路線の近隣地域に対する構造物の影響を考慮(⑤)
- 新名神計画路線と関西電力架空線の交差条件を考慮(⑥)

淀川の自然環境全般に関する配慮等

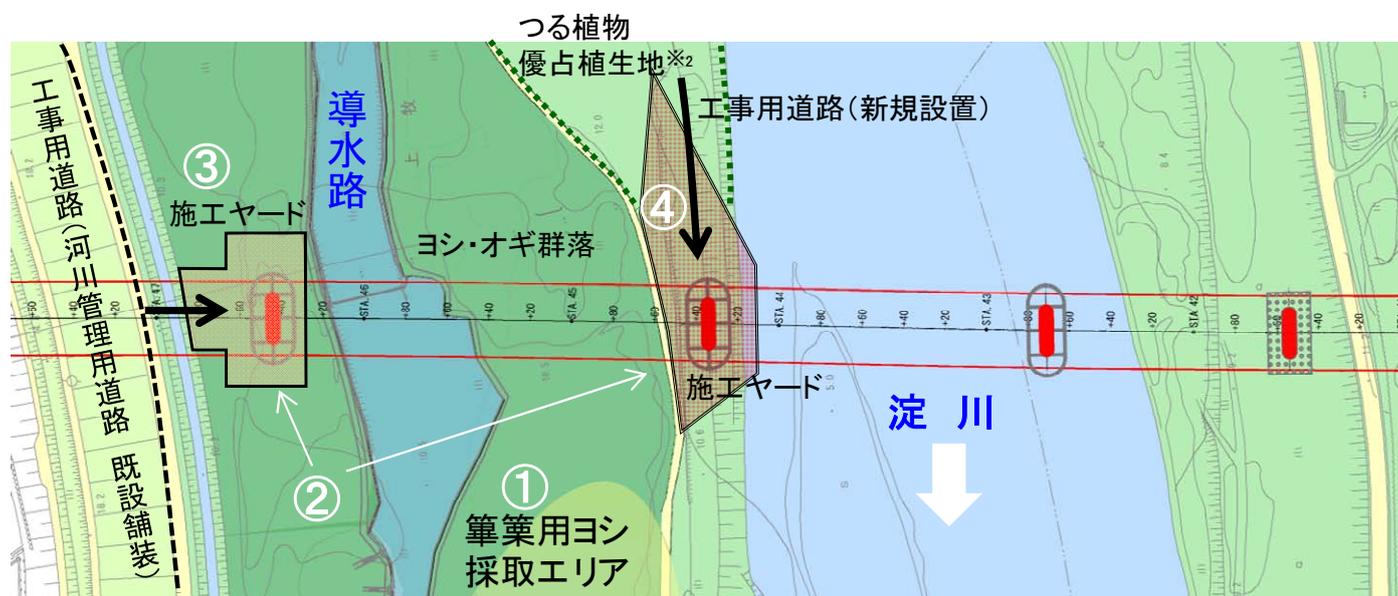
淀川渡河部における橋梁計画策定

鶺鴒ヨシ原の環境保全に配慮した橋梁計画

NEXCO西日本では、「設計段階での配慮事項」「施工段階での配慮事項」「淀川の周辺状況に関する配慮事項」等を踏まえて下記の具体的な保全対策に基づき橋梁計画を検討しました。今後、その橋梁計画に基づき事業を進め、モニタリングを実施します。

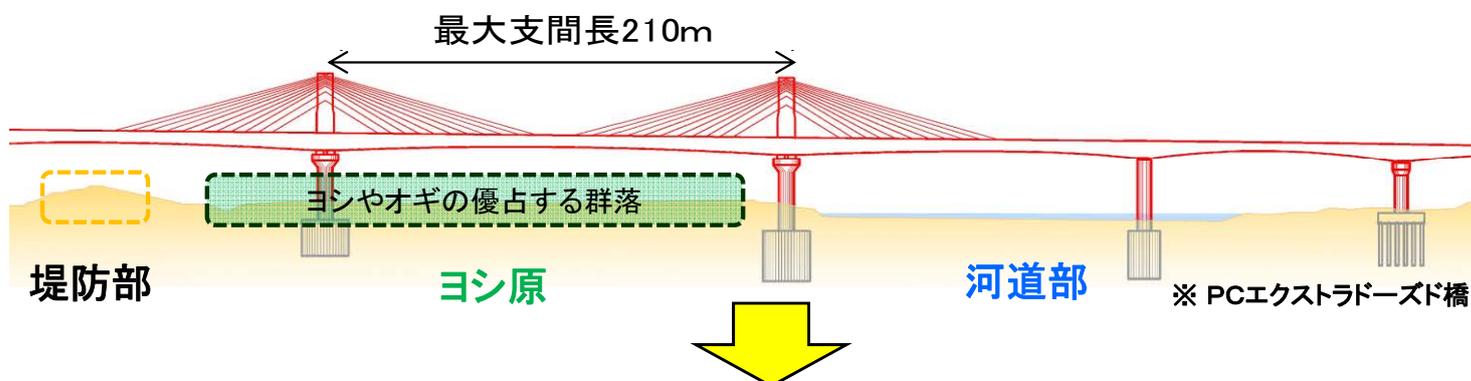
筆築用ヨシの保全を目指した橋梁計画※1

- 筆築用ヨシ採取エリアの改変を避けた橋梁計画とします。(①)
- 鶺鴒ヨシ原の導水路の改変を避け、筆築用ヨシ採取エリアや導水路との連続的な環境を保つよう、ヨシ原の改変を低減する位置に橋脚を配置します。(②)
- 橋桁の施工は桁下の改変範囲を極力小さくする架設工法を採用します。
- 橋梁基礎の施工は、施工箇所における改変範囲を極力小さくする工法を採用します。(③)
- 工事用道路は、既設舗装道路の活用や筆築用ヨシ採取エリアと連続するヨシ・オギ群落からの離隔を確保し、つる植物が主体の河川側に新規に設置するなど、改変範囲を極力小さくします。(④)



※1 第7, 8回検討会資料より引用。

※2 施工ヤード造成として、つる植物優占植生地の一部を使用します。



上記の橋梁計画では、鶺鴒ヨシ原においてヨシやオギの優占する群落に配置する橋脚は1基となるとともに、施工時の改変範囲をより小さくすることが可能となります。

筆築用ヨシ採取エリアのモニタリング

工事期間中における筆築用ヨシの採取状況や、生育状況、生育環境の保全状況を確認するために、今後は各種モニタリングを行います。モニタリング結果は、HP等を通じて公表してまいります。

《モニタリング内容》

採取状況 確認	調査対象	調査項目	これまでの調査による確認内容	モニタリング内容
	採取エリア	採取位置	道路計画域より約60m下流側	ヨシ採取者へのヒアリング等を毎年実施(2回/年)

+ 合わせて実施

生育状況等確認	調査区分	調査対象	調査項目	これまでの調査による確認内容	モニタリング内容
	生育調査	ヨシの生育	植生分布	採取エリアは、ヨシ・オギ群落に存在	各植物群落の分布状況を確認(1回/年:秋ごろ)
			草丈・茎径	陸域ヨシは、草丈が高く、茎径が太い	調査区を設置し、ヨシの草丈・茎径及び生育密度を調査(1回/年)
			生育密度	筆築用ヨシは、相対的に生育密度が低い	
	生育環境調査	気象調査	温度・降水量	瀬戸内海気候に属し、温暖少雨な地域	アメダスデータで、気温、降水量を確認(12回/年)
		水分調査	土壌水分	根系の分布範囲は、降雨に依存して変動	計測機器を用いて、土壌水分、地下水位を確認(通年)
			地下水位	根系の分布範囲より、深い位置に形成	
			河川(本流)水位	地下水位の変動する要因である	国土交通省河川水位のデータで、淀川水位を確認(通年)

トピック： 鶺殿のヨシ原焼き 現地調査

鶺殿のヨシ原焼きは、ヨシ原の保全と害草・害虫の駆除、不慮の火災防止等を目的として実施されています。

平成29年は、鶺殿のヨシ原保存会・上牧実行組合の主催により、ヨシ原焼きが実施されました。

【面積】 約30ha(上牧地区 10ha、道鶺地区 20ha)



平成29年2月26日実施時撮影



使用したマルチコプター

NEXCO西日本では、高速道路開通後も継続してヨシ原焼きが行えるよう、ヨシ原焼きに伴う新名神高速道路への影響を調査しており、今後も引き続き実施する予定です。

【調査実施内容】

- ヨシ原焼き状況の映像撮影
- 煙による視認性への影響確認
- 風向・風速・気温の計測

Q1: どのようなヨシが、筆簾の蘆舌用として使用されているのですか？

A1:

背が高く、太いという形状寸法の違いのほか、適度な厚みがあり弾力に富み割れにくく、組織が均一で密度が高いものが筆簾の蘆舌用ヨシとして使われているといわれています。

Q2: 新名神高速道路建設の影響で、筆簾の蘆舌用ヨシが採れなくなるのですか？

A2:

新名神高速道路のルートが、筆簾の蘆舌用ヨシの採取範囲から約60m以上離れていることが確認されていますので、高速道路の構造物をその採取範囲内に設置することはありません。

工事用道路についても筆簾の蘆舌用ヨシの採取範囲内に設置しないよう十分に配慮するなど、直接的な影響が及ばないように計画しています。

また、地下水の流れ等の影響については、調査及びシミュレーション結果にもとづき、影響が及ばないと推察されています。

Q3: 鶺鴒ヨシ原の復元に向けて、導水路や揚水ポンプが設置されていますが、新名神高速道路の建設により使えなくなるのですか？

A3:

新名神高速道路の構造物や工事用道路などの設置にあたって、導水路や揚水ポンプに影響のない計画を立てていきます。



Q4: 新名神高速道路が開通した場合、ヨシ原焼きはできなくなるのですか？

A4:

新名神高速道路開通後もヨシ原焼きが継続的に実施できるよう調査を実施し、関係機関と調整していきます。



Q5: 高速道路の建設でヨシ原の生態系を含む環境は保全できるのですか？

A5:

新名神高速道路の建設に当たっては、環境影響評価(平成7年)によって「専門家の指導・助言を得て調査を行い」「葦(よし)原に極力影響を及ぼさないよう橋脚の構造、橋脚の配置、工法等を検討し葦原の保全に努める」とされています。

このため、鶺鴒ヨシ原の環境保全については、国土交通省 淀川河川事務所が運営する「淀川環境委員会」にて検討しているところです。

また、工事の実施に当たっては、上記委員会に所属する専門家の指導・助言を踏まえ、ヨシ原の生態系に極力影響を与えない計画を立てていきます。

関西支社管内 道路網図



西日本高速道路(株) 関西支社
 〒567-0871 大阪府茨木市岩倉町1-13
 TEL.06-6344-8888 FAX.06-6344-9244

西日本高速道路(株) 新名神大阪東事務所
 〒573-1171 大阪府枚方市三栗2-5-1
 TEL.072-809-4740 FAX.072-809-4741

平成29年6月 作成